

設 計 概 要 書

I 業務概要（業務別）

1. 業務名称

滋賀県立大学B棟他受変電設備等更新工事設計業務委託

2. 計画施設概要

本業務の対象施設の概要は次のとおりとする。

- | | |
|-----------|---------------|
| (1) 施設名称 | 滋賀県立大学 |
| (2) 敷地の場所 | 滋賀県彦根市八坂町2500 |
| (3) 施設用途 | 専門的教育施設 |
- 平成21年国土交通省告示第15号別添二第 8 号第 2 類とする。

3. 設計と条件

- | | |
|---|--|
| (1) 敷地の条件 | |
| a. 敷地の面積 | 320,814 m ² |
| b. 用途地域および地区の指定 市街化調整区域 | 第一種中高層住居専用地域 |
| (2) 施設の条件 | |
| a. 施設の延べ面積 | 76,823 m ² |
| b. 主要構造 | 鉄筋コンクリート造 |
| | 具体的に |
| c. 耐震安全性の分類 | |
| 官庁施設の総合耐震計画基準（平成19年12月18日付け国営計第76号、国営整第123号、国営設第101号）による。耐震安全性の分類は次のとおりとする。 | |
| 1) 構造体 | Ⅱ 類 |
| 2) 建築非構造部材 | B 類 |
| 3) 建築設備 | 乙 類 |
| (3) 建設の条件 | |
| a. 予定工事費 | 1,088,000 千円（税込み） |
| b. 建設工期 | 令和8年度 ~ 令和12年度 |

(4) その他の与条件

工事内容および 規模・構造	<p>高圧配変電設備等の更新・改修 既設高圧配電設備の更新または改修を行う。</p> <p>◇ 電気設備工事 一式</p> <p style="padding-left: 20px;">・ B0、B8、C1、C2、D3、産学連携棟の高圧配電設備等について、更新または改修を検討し、協議の上その方法を決定する。</p> <p style="padding-left: 20px;"><改修範囲> 別紙図面のとおりに</p> <p>◇ 機械設備工事 一式</p> <p style="padding-left: 20px;">・ 更新等工事に伴う換気設備の改修または更新</p> <p style="padding-left: 20px;">・ 更新等支障となる設備の撤去、改修</p> <p>◇ その他</p> <p style="padding-left: 20px;">・ 更新等工事に伴う停電について、停電時間短縮のための対策や工程、仮設により末端が停電しないような対策を検討し、設計に反映すること。</p>
------------------	--

<p>設計図書等の 最終提出期限</p>	<p>特記仕様書「I 5. 業務委託期限または期間」に定める業務委託期限 (設計図、積算数量算出書(RIBC)・数量調書、見積書、見積比較表とも)</p>
<p>設計内容の摘要等</p>	<p>【設計内容の摘要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 別紙「設備設計概要」のとおり。 ◎ 安全性に十分配慮した、改修計画および仮設計画を立案すること。 ◎ 設計にあたり、施設管理者と協議のうえ工事スケジュール案および仮設計画を作成すること。 停電が必要な工事については、その時間、改修内容を取りまとめた上で、長時間にわたる停電が必要な場合は必要な対策を検討し、協議すること。 ◎ 当該工事に付随して必要となる補修工事、迂回工事、撤去、移設等に係る設計も本委託の中で実施すること。 ◎ 当該工事に伴い必要となる工作物、設備および備品（建物に固定されたもの）等の撤去、復旧および移設等に係る設計を行うこと。 工事の実施にあたり、建築物等の一時撤去が必要な場合は、これらの撤去および復旧の設計を行うこと。 <p>【設計業務の摘要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 当該工事に付随して必要となる省エネルギー関係計算書の作成および申請手続きを本委託の中で行うこと。 ◎ 図面は、A3サイズで拡大せずに読み取り可能なものとする。また、ファイル形式は、「.dwg」か「.dxf」およびJWW形式にてCD-Rにて提出し、併せてpdf形式も提出すること。 ◎ 環境性能や省エネルギー性能、維持管理等について十分に配慮のうえ、適切な設計を行い、対応事項は要点を文書で提出すること。さらに、「公共建築に係る環境配慮指針（設計段階での配慮）」によるチェックシートを作成すること。なお、不採用取組項目がある場合はその理由を附して提出すること。 ◎ 設計にあたり、設計建物に対する障害物（地中埋設物等）、既存建物との取合、給排水、電気、ガス等の供給施設の調査、関係機関との打ち合わせを十分にしておき、その結果を記録し報告すること。（写真を含む） ◎ 数量の積算については、公共建築数量積算基準・公共建築設備積算基準等により適切に行うこと。なお、積算は建築積算資格者が行うよう努めること。 ◎ 受注者は建築士法第24条の7に基づく「重要事項説明」を行うこと。詳しくは、滋賀県土木交通部建築課のホームページで確認して適切に実施すること。 https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kendoseibi/zyuutaku/19283.html

設 備 設 計 概 要

電気設備

滋賀県立大学B棟他受変電設備等更新工事設計業務委託

(注) 該当種目は適用欄に○印をつける。

適用欄	番号	種 目	内 容
	1	高压引込み設備	
○	2	受 変 電 設 備	高压受変電設備の更新を行う。
○	3	電灯・動力幹線設備	電灯、動力幹線設備の改修を行う。
○	4	電灯コンセント設備	更新等工事に伴う電灯コンセント設備の改修を行う。
○	5	動 力 設 備	空調・換気設備改修に伴い、所要箇所の動力設備を改修を行う。
	6	拡 声 設 備	
	7	電 話 設 備	
	8	電気時計設備	
○	9	通信信号設備	通信信号設備の改修、更新を行う。
	10	テレビ共視聴設備	
○	11	自動火災報知設備	自動火災報知設備の改修、更新を行う。
	12	ガス漏れ警報設備	
	13	防火戸自閉設備	
	14	避 雷 設 備	
	15	太陽光発電設備	
○	16	そ の 他	更新等工事において、支障となる設備の改修および撤去を行う。 所要箇所に設備基礎等の設置、改修、点検口の設置等を行う。

設 備 設 計 概 要

機械設備

滋賀県立大学B棟他受変電設備等更新工事設計業務委託

(注) 該当種目は適用欄に○印をつける。

適用欄	番号	種 目	内 容
	1	受 水 設 備	
	2	給 水 設 備	
	3	排水通気設備	
	4	衛生器具設備	
	5	ガ ス 設 備	
	6	消 火 設 備	
	7	給 湯 設 備	
	8	厨 房 設 備	
	9	し尿浄化槽設備	
○	10	換 気 設 備	換気設備の改修を行う。
	11	排 煙 設 備	
	12	暖 房 設 備	
	13	冷 房 設 備	
○	14	空気調和設備	更新等工事に伴い空気調和設備の改修を行う。
○	15	そ の 他	支障となる設備の改修および撤去を行う。 所要箇所に設備基礎等の改修、点検口の設置等を行う。
	16		
	17		

設計業務特記仕様書 (令和6年度)

I 業務概要(総括)

令和 年度 設委第 号

1. 業務名称

2. 計画施設概要

本業務の対象となる施設（以下「対象施設」という。）の概要は別添「設計概要書」のとおりとする。

3. 適用

特記仕様書に記載された特記事項については、「※」印または「◎」印の付いたものを適用し、「・」印の付いたものは適用しない。

4. 設計と条件

本業務の設計と条件は別添「設計概要書」のとおりとする。

5. 業務委託期限または期間

業務委託期限

契約成立の日から

まで

業務委託期間

契約成立の日から

II 業務仕様

本特記仕様書（以下「特記仕様書」という。）に記載されていない事項は、「公共建築設計業務委託共通仕様書」（平成20年3月31日付け国営整第176号（最終改定 令和3年3月25日付け国営整第210号））による。この場合において、「調査職員」とあるのは、「監督職員」と読み替えるものとする。

1. 適用

(1) 公立大学法人 滋賀県立大学の独自要綱等の適用

- ※ 公立大学法人 滋賀県立大学建築工事設計業務実施要綱
- ・ 滋賀県建築工事設計図書作成要領
- ・ 改修工事設計マニュアル

(2) 設計と条件の資料の適用

設計と条件については、次の資料による。

- ・ 企画書
- ・ 基本計画書
- ・ 基本設計書
- ・ 指示事項書

2. 設計業務の内容および範囲

(1) 一般業務の範囲（別表で対象外業務としたものを除く。）

(a) 基本設計に関する標準業務

- ・ 総合
- ・ 構造
- ・ 電気設備
- ・ 機械設備（給排水衛生設備、空調換気設備および昇降機等）

(b) 実施設計に関する標準業務（工事施工段階で設計者が行うことに合理性がある実施設計に関する標準業務は含まない。）

- ・ 総合
- ・ 構造
- ※ 電気設備
- ※ 機械設備（給排水衛生設備、空調換気設備および昇降機等）

(2) 追加業務の内容および範囲

- ・ 建築積算
（積算数量算出書（積算数量調書含む）の作成、単価作成資料の作成、見積収集、見積検討資料の作成）

- ※ 電気設備積算
（積算数量算出書（積算数量調書含む）の作成、単価作成資料の作成、見積収集、見積検討資料の作成）

- ※ 機械設備積算
（積算数量算出書（積算数量調書含む）の作成、単価作成資料の作成、見積収集、見積検討資料の作成）

- ・ 透視図作成
種類 判の大きさ 枚数 額の有無 材質
電子データ

- ・ 模型製作
縮尺 主要材料 ケースの有無 材質

- ・ 模型の写真撮影
カット枚数 判の大きさ 白黒・カラーの別 電子データ

- ・ 計画通知または確認申請に関する手続業務（手数料の納付は含まない）

- ※ 関係法令等に基づく各種申請手続業務

- ・ アスベスト調査

- ・ 配管保温材アスベスト調査

- ・ 定量分析（JIS A 1481-3またはJIS A 1481-4）調査とすること。また含有量を調査、報告のこと）

- ・ 防災計画評定または防災性能評定に関する資料の作成および申請手続業務

- ※ リサイクル計画書の作成

- ※ 概略工事工程表の作成

- ・ 営繕事業広報ポスターの作成

- ・ 災害応急対策活動に必要な施設その他特別な性能、機能、設備等を有する官庁施設の設計等における特別な検討および資料の作成（建築非構造部材の耐震安全性に関する特別な検討、特殊な設備機器を有する室の設計に係る特別な検討等）

- ※ 省エネルギー関係計算書の標準入力法による作成

- ・ 建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律（平成27年法律第53号。以下「建築物省エネ法」という。）第13条第2項に規定する手続業務（手数料の納付は含まない。）

- エネルギー消費性能関係計算書の標準入力法による作成およびコンバートツールによるエネルギー消費性能の算定
- 建築物総合環境性能評価システム（CASBEE）による評価書の作成
- 総合的な環境保全性能およびライフサイクル二酸化炭素排出量の評価業務
- 住民説明等に必要な資料の作成（法令等に基づくものを除く。）
- 日影図の作成
- 環境保全性に関する検討・評価資料の作成
 - LCEMツールによる空調システムの評価
 - 再生可能エネルギー [] の利活用に係る検討資料の作成
 - [] によるエネルギー削減効果に係る資料の作成
- ※ 施工計画資料の整理（各施設の今回設計にかかる仮設検討図等の作成含む。）

3. 業務の実施

(1) 一般事項

- (a) 基本設計業務は、提示された設計と条件および適用基準等に基づき行う。
- (b) 実施設計業務は、提示された設計と条件、基本設計図書および適用基準等に基づき行う。
- (c) 積算業務は、監督職員の承諾を受けた実施設計図書および適用基準等に基づき行う。
- (d) 監督職員の指示により、「企画書対応確認書」を用いて、作成した成果物が企画書の内容に対応していることを確認のうえ、成果物を監督職員に提出する。
- (e) 設計に当たっては、工事現場の生産性向上（省人化および工事日数短縮）に配慮する。
- (f) 「建設工事公衆災害防止対策要綱」（令和元年国土交通省告示第496号）に基づき、現場の施工条件を十分に調査した上で、施工時における公衆災害の発生防止に努めるとともに、施工時に留意すべき事項がある場合には、成果物に明示する。
- (g) 「働き方改革に配慮した公共建築設計業務委託のためのガイドライン」（令和2年10月全国営繕主管課長会議）を踏まえ、手戻り防止のための設計業務のプロセス管理に努めるものとする。

(2) 適用基準等

本業務に滋賀県が制定する以下に掲げる技術基準等を適用する。

- ※ 滋賀県建築工事積算基準（最終改定 令和2年6月）
- ※ 滋賀県建築工事積算基準において準用する基準の適用について（令和5年7月1日以降入札公告から適用）
- ※ 滋賀県建築工事設計業務実施要綱（以下「実施要綱」という。）
- ※ 滋賀県建築工事設計図書作成要領
- ※ 改修工事設計マニュアル
- ※ だれもが住みたくなる福祉滋賀のまちづくり条例 施設整備マニュアル

(3) 準用基準等

本業務で前項に定めのないことについては、国土交通省が制定する以下に掲げる技術基準等を準用する。受注者は業務の対象である施設の設計内容及び業務の実施内容が技術基準等に適合するよう業務を実施しなければならない。

なお、市販されているもの以外は国土交通省ホームページに掲載されている。

URL http://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_tk2_000017.html

(a) 共 通

	(年 版 等)
※ 官庁施設の基本的性能基準	(令 和 2 年 改 定)
※ 官庁施設の企画書及び企画書対応確認書の標準的書式	(令 和 3 年 改 定)
※ 官庁施設の設計段階におけるコスト管理ガイドライン	(平 成 27 年 改 定)
※ 官庁施設の総合耐震・対津波計画基準	(平 成 25 年 制 定)
※ 官庁施設の総合耐震診断・改修基準	(平 成 8 年 制 定)
※ 木造計画・設計基準	(平 成 29 年 制 定)
※ 木造計画・設計基準の資料	(平 成 29 年 制 定)
※ 官庁施設の環境保全性基準	(令 和 4 年 改 定)
※ 官庁施設の防犯に関する基準	(平 成 21 年 制 定)
※ 官庁施設のユニバーサルデザインに関する基準	(平 成 18 年 制 定)
※ 建築設計業務等電子納品要領	(令 和 4 年 改 定)
※ 官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕業務編】	(令 和 4 年 改 定)
※ 公共建築工事積算基準	(平 成 28 年 改 定)
※ 公共建築工事共通費積算基準	(令 和 5 年 改 定)
※ 公共建築工事標準単価積算基準	(令 和 5 年 改 定)
※ 公共建築工事積算基準等資料	(令 和 5 年 改 定)
※ 営繕工事積算チェックマニュアル	(令 和 5 年 改 定)
※ 建築物解体工事共通仕様書	(令 和 4 年 改 定)
・ 官庁営繕事業におけるBIMモデルの作成及び利用に関するガイドライン	(令 和 4 年 改 定)
・ BIM適用事業における成果品作成の手引き(案)	(令 和 4 年 制 定)

(b) 建 築

	(年 版 等)
※ 建築工事設計図書作成基準	(令 和 2 年 改 定)
※ 建築工事設計図書作成基準の資料	(令 和 2 年 改 定)
・ 敷地調査共通仕様書	(令 和 4 年 改 定)
※ 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）	(令 和 4 年 版)
※ 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）	(令 和 4 年 版)
※ 公共建築木造工事標準仕様書	(令 和 4 年 版)
※ 建築設計基準	(令 和 4 年 改 定)
※ 建築設計基準の資料	(令 和 4 年 改 定)
※ 建築構造設計基準	(令 和 3 年 改 定)
※ 建築構造設計基準の資料	(令 和 3 年 改 定)
※ 建築工事標準詳細図	(令 和 4 年 改 定)
※ 構内舗装・排水設計基準	(平 成 27 年 改 定)

- | | | |
|---|----------------|-----------|
| ※ | 構内舗装・排水設計基準の資料 | (平成27年改定) |
|---|----------------|-----------|
- (c) 建築積算 (年版等)
- | | | |
|---|----------------------|----------|
| ※ | 公共建築数量積算基準 | (令和5年改定) |
| ※ | 公共建築工事内訳書標準書式(建築工事編) | (令和5年改定) |
| ※ | 公共建築工事見積標準書式(建築工事編) | (令和5年改定) |
| ※ | 営繕工事積算チェックリスト(建築工事編) | |
- (d) 設備 (年版等)
- | | | |
|---|-----------------------------------|-----------|
| ※ | 建築設備計画基準 | (令和3年改定) |
| ※ | 建築設備設計基準 | (令和3年改定) |
| ※ | 建築設備工事設計図書作成基準 | (令和3年改定) |
| ※ | 公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編) | (令和4年版) |
| ※ | 公共建築設備工事標準図(電気設備工事編) | (令和4年版) |
| ※ | 公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編) | (令和4年版) |
| ※ | 公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編) | (令和4年版) |
| ※ | 公共建築設備工事標準図(機械設備工事編) | (令和4年版) |
| ※ | 公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編) | (令和4年版) |
| ※ | 雨水利用・排水再利用設備計画基準 | (平成28年制定) |
| ※ | 建築設備耐震設計・施工指針(一般財団法人日本建築センター) | (2014年版) |
| ※ | 建築設備設計計算書作成の手引(一般財団法人公共建築協会) | (令和3年版) |
| ※ | 空気調和システムのライフサイクルエネルギーマネジメントガイドライン | (平成22年制定) |
- (e) 設備積算 (年版等)
- | | | |
|---|----------------------|----------|
| ※ | 公共建築設備数量積算基準 | (令和5年改定) |
| ※ | 公共建築工事内訳書標準書式(設備工事編) | (令和5年改定) |
| ※ | 公共建築工事見積標準書式(設備工事編) | (令和5年改定) |
- (4) 提出書類
- ※ 業務実績情報の登録
 - ・ 要

受注者は、公共建築設計者情報システム(PUBDIS)に「業務カルテ」を登録する。なお、登録に先立ち、監督職員の確認を受ける。また、業務完了検査時には、登録されることを証明する資料として、監督職員の確認を受けた書面を検査職員に提出し確認を受け、業務完了後に速やかに登録を行う。その後、業務カルテ受領書の写しを監督職員に提出する。
 - ※ 不要
- (5) 業務計画書
- 業務計画書には、次の内容を記載する。
 なお、プロポーザル方式または総合評価方式による手続きを経て業務を受注した場合は、下記(a)、(b)、(d)および(e)について、技術提案書に記載があり、その内容に変更がなければ提出を省略できる。
 また、受注者は、契約締結後14日以内に業務計画書を作成し、監督職員に提出するものとする。
- (a) 管理技術者の氏名、生年月日、所属・役職、保有資格、過去5年間の同種または類似業務の実績、滋賀県の発注物件の業務実績および手持業務の状況
- (b) 各主任担当技術者(管理技術者の下で各分担業務分野における担当技術者を総括する役割を担うものをいう。)の担当分野、氏名、生年月日、所属、保有資格、過去5年間の同種または類似業務の実績、滋賀県の発注物件の業務実績および手持業務の状況
- (c) 担当技術者の分担業務分野、氏名、生年月日、所属、保有資格、過去5年間の同種または類似業務の実績(担当技術者を配置する場合)
- (d) 協力事務所(協力者のうち、分担業務分野の主任担当技術者が所属する事務所をいう。以下同じ。)の名称、代表者名、所在地、分担業務分野、協力を受ける理由および具体的内容(協力者がある場合)
- (e) 追加する分担業務分野、具体的な業務内容、追加する理由および主任担当技術者の氏名、生年月日、所属・役職、保有資格、過去5年間の当該分野における業務実績および手持業務の状況(総合、構造、電気および機械以外に分担業務分野がある場合)
- 注) 「過去5年間の同種または類似業務の実績」とは、次の①～③全ての項目に該当する実績をいう。
 なお、海外の実績および協力会社として携わった実績についても条件を満たしていれば実績として記載できる。
- ① 今年度を除いた過去5年度以降の間に完成した施設の設計業務実績

- ② 本業務において担当する分担業務分野での設計業務実績（ただし、管理技術者またはこれに準ずる立場としての業務実績を有する場合は、当該業務の主たる分担業務分野についても業務実績を有することとして扱うことができる。）
- ③ 次を満たす施設の設計業務実績
 - 1) 同種業務の実績における対象施設は、公共施設とする。
 - 2) 類似業務の実績における対象施設は、計画施設と類似用途の公共施設とする。
- (f) 公共建築設計業務委託共通仕様書第3章3.2に定める設計方針
- (g) プロポーザル方式により業務を受注した場合の業務履行
受注者は、プロポーザル方式により設計業務を受注した場合には、技術提案書により提案された履行体制により当該業務を履行する。
また、環境配慮型プロポーザル方式の適用業務の場合は、設計成果について、総合的な環境保全性能および生涯二酸化炭素排出量(LCCO₂)の評価を行うこと。
- (h) 総合評価落札方式により業務を受注した場合の業務履行
受注者は、総合評価落札方式により設計業務を受注した場合には、技術提案書に記述した提案について、原則として業務計画書に記載しなければならない。

(6) 管理技術者および主任担当技術者の資格要件

- ・ 設計業務説明書による
- ・ 技術提案書提出要請書による
- ・ 入札説明書による

技術提案書に記載した配置予定の技術者は、原則として変更できない。ただし、病休、死亡、退職等のやむを得ない理由により変更を行う場合には、同等以上の技術者であるとの発注者の了解を得なければならない。

※ 下記による

業務の実施に当たっては、次の資格要件を有する管理技術者および主任担当技術者を適切に配置した体制とする。

(a) 管理技術者

管理技術者の資格要件は次による。

※ 建築士法（昭和25年法律第202号）第2条第2項に規定する一級建築士

※ 建築士法第2条第5項に規定する建築設備士

- ・ 下記の実務経験（建築士法施行規則第1条の2に定める内容をいう。以下同じ。）を有すること。

※ ・管理技術者は、下記の分野の主任担当技術者を兼務してよいこととする。

- ・ 建築
- ・ 構造
- ※ 電気設備
- ・ 機械設備

(b) 主任担当技術者

主任担当技術者の資格要件は次により、指定する次の分野毎に1名配置するものとする。

- ・ 建築
- ※ 電気設備
- ※ 機械設備

主たる分担業務分野（下記）の主任担当技術者は、受注者が会社その他の法人である場合にあっては当該法人に所属する者を配置しなければならない。

- ・ 建築
- ※ 電気設備
- ・ 機械設備

- ・ 下記の実務経験を有すること。

- ・ 18年以上
- ・ 13年以上
- ・ 8年以上
- ・ 5年以上

※ 主任担当技術者については、次の分野に限り兼務してよいこととする。

- ・ 総合と構造
- ※ 電気と機械

(7) 貸与資料等

(a) 既存設計図書等

- ※ 既存建築物設計図書一式
- ・ 既存工作物設計図書一式
- ・

(b) 既存資料

- ・ 既存敷地調査資料（柱状図）
- ・ 既存建築物資料（計画通知書）

(c) 資料の貸与および返却

貸与資料	適用
※ 既存建築物設計図書一式	
・	
・	
・	

貸与場所	滋賀県立大学財務課	貸与時期	業務着手時
返却場所	滋賀県立大学財務課	返却時期	実施設計提出時

(8) 打合せおよび記録

(a) 打合せは次の時期に行い、速やかに記録を作成し、監督職員に提出する。

- ① 業務着手時
- ② 監督職員または管理技術者が必要と認めた時
- ③ その他

(b) 新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、電話、電子メール、情報共有システム等を活用することにより、打合せ回数を極力減らすこととする。また、打合せを実施する場合には必要最小限の人数で実施するとともに、広い部屋での実施やマスクを着用する等、受発注者間で協議の上、感染予防対策を徹底することとする。

(9) 業務の再委託契約

受注者は、主たる分担業務分野（積算に関する業務を除く業務）を再委託してはならない。

上記以外の業務の一部を建築士法第23条に基づく建築士事務所（同条に基づき登録された建築設備事務所等も含む）に委任し、または請け負わせようとするときには、建築士法第22条の3の2に基づく契約を書面により締結し、担当者の求めに応じてその写しを提出しなければならない。

(10) 成果物等の情報の適正な管理

(a) 受注者は、本業務に関して発注者から貸与された情報その他知り得た情報であって、発注者が保護を要さないことを同意していない一切の非公表情報（以下「要保護情報」という。）を取り扱う場合は、当該情報を適切に管理するため、情報取扱者名簿および情報管理体制図を作成・提出し、発注者の同意を得なければならない。

また、記載内容に変更が生じる場合も、同様に作成・提出の上、あらかじめ発注者の同意を得なければならない。

(b) 受注者は、要保護情報についても情報取扱者以外の者に使用、閲覧または漏えいさせてはならない。

(c) 受注者は、要保護情報の漏えい等の事故やおそれが判明した場合については、履行中・履行後を問わず、事実関係等について直ちに発注者へ報告すること。

なお、報告がない場合でも、情報の漏えい等の懸念がある場合は、発注者が行う報告徴収や調査に応じること。

(11) 図面等の作成上の留意点

図面等の作成に当たっては、機密性の確保が求められる情報がわかる表記のあるものが必要最小限となるよう（例えば、機密性の確保が求められる室の用途が特定される室名等を表記しない。）、図面等の作成開始当初から留意する。また、機密性の確保が求められる情報がわかる表記のある図面等については、調査職員の指示により、機密性の確保に支障をきたす詳細等の情報を表記しない図面等も併せて作成する。

(12) 成果物等の情報の適正な管理

(a) 次に掲げる措置その他必要となる措置を講じ、契約書の秘密の保持等の規定を遵守のうえ、成果物等の情報を適正に管理する。

なお、発注者は措置の実施状況について報告を求めることができる。また、不十分であると認められる場合には、是正を求めることができるものとする。

成果物とは、

- 1) 業務の成果物（未完成の成果物を含む。）
- 2) その他業務の実施のため、作成され、または交付、貸与等されたもの等とし、紙媒体によるもののほか、これらの電子データ等を含むものとする。

- ① 発注者の承諾無く、成果物等の情報を業務の履行に関係しない第三者に閲覧させる、提供するなど（ホームページへの掲載、書籍への寄稿等を含む。）しない。
 - ② 業務の履行のための協力者等への成果物等の情報の交付等は、必要最小限の範囲について行う。
 - ③ 成果物等の情報の送信または運搬は、業務の履行のために必要な場合のほかは、発注者が必要と認めた場合に限る。また、必要となる情報漏洩防止を図るため、電子データによる送信または運搬に当たってのパスワードによる保護、情報の暗号化等必要となる措置を講ずる。
 - ④ サイバー攻撃に対して、必要となる情報漏洩防止の措置を講ずる。
 - ⑤ 貸与品等の情報については、業務の履行に必要な範囲に限り使用するものとし、II2.(7)により監督職員に返却する。また、複製等については、適切な方法により消去または削除する。
 - ⑥ 契約の履行に関して知り得た秘密については、契約書に規定されるとおり秘密の保持が求められるものとなるので特に取扱いに注意する。
- (b) 成果物等の情報の紛失、盗難等が生じたことまたは生じたおそれが認められた場合は、速やかに発注者に報告し、状況を把握するとともに、必要となる措置を講ずる。
- (c) 上記(a)及び(b)の規定は、契約終了後も対象とする。
- (d) 上記(a)、(b)及び(c)の規定は、協力者等に対しでも対象とする。
- (13) その他、業務の履行に係る条件等
- (a) 指定部分
- | | |
|-----------|---|
| 指定部分の範囲 | — |
| 指定部分の履行期限 | — |
- (b) 成果物等の提出場所
- | |
|------------|
| 滋賀県立大学 財務課 |
|------------|
- (c) 成果物等の取扱いについて
- 提出されたCADデータについては、当該施設に係る工事の請負業者に貸与し、当該工事における施工図の作成、当該施設の完成図の作成および完成後の維持管理に使用する。
- (d) 写真の著作権の権利等について
- 受注者は、写真の撮影を再委託する場合は、次の事項を条件とすること。
- ① 写真は、本学が行う事務ならびに本学が認めた公的機関の広報に無償で使用することができる。この場合において、著作者名を表示しないことができる。
 - ② 次に掲げる行為をしてはならない。（ただし、あらかじめ発注者の承諾を受けた場合は、この限りでない。）
 - 1) 写真を公表すること。
 - 2) 写真を他人に閲覧させ、複製させ、または譲渡すること。
- (e) 滋賀県の発注する建設工事等における暴力団員等による不当介入の排除について（「不当介入に関する通報制度」の徹底について）
- ① 受注者は、暴力団員等（暴力団の構成員および暴力団関係者、その他県発注工事等に対して不当介入をしようとするすべての者をいう。）による不当介入（不当な要求または業務の妨害）を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、不当介入があった時点で速やかに警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行うものとする。
 - ② 受注者は、前項により通報を行った場合には、速やかにその内容を記載した通報書により所轄警察署に届け出るとともに、監督職員に報告するものとする。また、受注者は、以上のことについて、下請負人（再委託の協力者を含む）に対して、十分に指導を行うものとする。
 - ③ 受注者は、暴力団員等による不当介入を受けたことが明らかになり、工程等に被害が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。
- (f) 業務コスト調査について
- 地方自治法施行令第167条の10第1項および第167条の10の2第2項の基準に基づく価格を下回る価格で契約した場合には、受注者は下記の事項に協力しなければならない。
- ① 受注者は、業務コスト調査に係る調査票等の作成を行い、業務完了日の翌日から起算して90日以内に発注者に提出するものとする。
- なお、調査票等については別途監督職員から指示するものとする。
（参考URL http://www.mlit.go.jp/tec/gyoumu_other.html）
- ② 受注者は、提出された調査票等の内容を確認するために監督職員がヒアリング調査を実施する場合、当該調査に応じるものとする。

4. 成果物、提出部数等

成果物は、計画施設ごとに取りまとめて、各々指定部数を提出するものとする。

(1) 基本設計

成果物	原 図	写 し	製本形態	適用 (A1判以外は特記)
a. 総合 ・ 総合基本設計図書 ・ 計画説明書 ・ 仕様概要表 ・ 仕上概要表 ・ 面積表および求積図 ・ 敷地案内図 ・ 配置図 ・ 平面図 (各階) ・ 断面図 ・ 立面図 (各面) ・ 工事費概算書 ・ 仮設計画概要書	各1部 各1部 各1部	各1部 各1部 各1部		※CD-Rによる提出
b. 構造 ・ 構造基本設計図書 ・ 基本構造計画案 ・ 構造計画説明書 ・ 構造計画概要書 ・ 工事費概算書	各1部 各1部	各1部 各1部		工法比較を含む。
c. 電気設備 ・ 電気設備基本設計図書 ・ 電気設備計画説明書 ・ 電気設備計画概要書 ・ 工事費概算書	各1部 各1部	各1部 各1部		※CD-Rによる提出 更新工事の全体工程の作成 必要な仮設負荷の設置計画の作成 饋電盤等改修方法の検討
d. 機械設備 ・ 機械設備基本設計図書 ・ 機械設備計画説明書 ・ 機械設備計画概要書 ・ 工事費概算書	各1部 各1部	各1部 各1部		
e. その他 ・ 透視図 ・ 模型 ・ リサイクル計画書	各1部 各1部	各1部 各1部		
f. 資 料 ・ 各種技術資料 ・ 各記録書 ・ 建築物総合環境性能評価システム (CASBEE) 目標値報告書 ・ LCMツールによる空調システムの評価報告書 ・ 工法比較検討書 ・ 建築材料等アスベスト使用調査報告書	一式 一式 一式 一式 一式 一式	各1部 各1部 各1部 各1部 各1部 各1部		

(注)：成果物について

- (1) 成果物は、監督職員の指示により、製本とする。
- (2) 「CD-Rによる提出」が特記された成果物等は電子データにて納品する。
 なお、「CD-Rによる提出」が特記されていない成果物等を電子データにて納品の対象とする場合は、監督職員と受注者で協議を行う。
- (3) CD-Rにて提出の場合、ファイル形式は、以下のとおりとする。
 - ① 図面ファイルのファイル形式は、DWG形式またはDXF形式およびJWW形式によることとし、1図面1ファイルとなるよう作成する。また、オリジナルファイルも提出する。
 - ② オリジナルファイルを作成するソフトウェアおよびファイル形式については、受注者が決定することができる。ただし、可能な限り一般的なソフトウェアを利用するよう努める。
 - ③ 図面ファイル以外の業務関係資料ファイルのファイル形式は、監督職員と受注者で協議し決定する。
- (4) ウィルス対策については、以下のとおりとする。

- ① 受注者は、成果品が完成した時点で、ウイルスチェックを行う。
- ② 最新のウイルスも検出できるように、ウイルス対策ソフトは常に最新のデータに更新（アップデート）したものを利用する。
- ③ 電子媒体の表面には、「使用したウイルス対策ソフト名」、「ウイルス（パターンファイル）定義年月日またはパターンファイル名」、「チェック年月日（西暦表示）」を明記する。

(5) CD-Rにて提出の場合、電子媒体の提出部数は1部とする。

: その他について

- (1) 構造、電気設備および機械設備の成果物は、総合基本設計の成果物の中に入れることができる。
- (2) 新築および増築に係る工事費概算書の作成は、「官庁施設の設計段階におけるコスト管理ガイドライン」による。
- (3) 総合設計図は、適宜、追加してもよい。

(2) 実施設計

成果物	原 図	写 し	製本形態	適用 (A1判以外は特記)
a. 総合 ・ 総合設計図 ・ 表紙 ・ 図面リスト ・ 特記仕様書 ・ 仕上表 ・ 敷地案内図（附近見取図） ・ 面積表および求積図 ・ 配置図 ・ 平面図（各階） ・ 断面図 ・ 立面図（各面） ・ 矩計図 ・ 展開図 ・ 天井伏図（各階） ・ 平面詳細図 ・ 部分詳細図（断面含む） ・ 建具表 ・ 外構図 ・ 総合仮設計画図 ・ 非構造部材計算書 ・ 工事費概要書(実施要綱第24条に基づく図書) ・ 計画通知図書 ・ 中高層建築物の届出書 ・ その他許可、認定、承認、届出書等 ・ 打合せ記録 ・ 工事履歴配置図	各1部	各1部	A3orA4	※CD-Rによる提出
・ 非構造部材計算書 ・ 工事費概要書(実施要綱第24条に基づく図書) ・ 計画通知図書 ・ 中高層建築物の届出書 ・ その他許可、認定、承認、届出書等 ・ 打合せ記録 ・ 工事履歴配置図	各1部	各1部 各1部 各1部 各1部 各1部 各1部	A3orA4	※CD-Rによる提出
b. 構造 ・ 構造設計図 ・ 仕様書 ・ 構造基準図 ・ 伏図（各階） ・ 軸組図 ・ 部材断面図 ・ 各部断面図 ・ 標準詳細図 ・ 各部詳細図 ・ 構造計算書 ・ 工事費概算書 ・ 計画通知図書	各1部	各1部		※CD-Rによる提出

成果物	原 図	写 し	製本形態	適用 (A1判以外は特記)
c. 電気設備				
※ 電気設備設計図	各 1 部	各 1 部	A3orA4	※CD-Rによる提出 建築、機械設備分を含む
※ 表紙				
※ 図面リスト				
※ 特記仕様書				
※ 敷地案内図 (附近見取図)				
※ 配置図				
※ 平面図				
◎ 電灯設備図				
◎ 動力設備図				
・ 電熱設備図				
・ 避雷設備図				
◎ 受変電設備図				仮設図含む
・ 静止形電源設備図				
・ 発電設備図				
・ 構内情報通信網設備図				
・ 構内交換設備図				
・ 情報表示設備図				
・ 映像・音響設備図				
・ 拡声設備図				
・ 誘導支援設備図				
・ 呼出し設備図				
・ テレビ共同受信設備図				
・ テレビ電波障害防除設備図				
・ 監視カメラ設備図				
・ 駐車場管制設備図				
・ 防犯・入退室管理設備図				
◎ 火災報知設備図				
◎ 中央監視制御設備図				
◎ 構内配電線路図				
◎ 構内通信線路図				
・ 医用接地設備図				
・ 非接地配線設備図				
・ ナースコール設備図				
◎ 機器リスト (必要に応じて)				
◎ 系統図 (必要に応じて)				
◎ 配線図 (必要に応じて)				
◎ 詳細図 (必要に応じて)				
◎ 器具リスト (必要に応じて)				
◎ 分電盤リスト (必要に応じて)				
◎ 姿図 (必要に応じて)				
※ 電気設備設計計算書	各 1 部	各 1 部	A3orA4	※CD-Rによる提出
※ 工事費概要書 (実施要綱第24条に基づく図書)	各 1 部	各 1 部	A3orA4	※CD-Rによる提出
・ 計画通知図書				
・ 中高層建築物の届出書				
・ 電気設備設計チェックリスト	各 1 部	各 1 部	A3orA4	※CD-Rによる提出
※ 維持管理計算書	各 1 部	各 1 部	A3orA4	※CD-Rによる提出
※ 許可、認定、承認、届出書等	各 1 部	各 1 部	A3orA4	※CD-Rによる提出
※ 打合せ記録	各 1 部	各 1 部	A3orA4	※CD-Rによる提出

成果物	原 図	写 し	製本形態	適用 (A1判以外は特記)
d. 機械設備				
<ul style="list-style-type: none"> ※ 機械設備設計図 ・ 表紙 ・ 図面リスト ※ 特記仕様書 ・ 敷地案内図（附近見取図） ・ 配置図 ※ 平面図 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 空気調和設備図 ◎ 換気設備図 ・ 排煙設備図 ・ 衛生器具設備図 ・ 給水設備図 ・ 排水設備図 ・ 給湯設備図 ・ 消火設備図 ・ 厨房設備図 ・ ガス設備図 ・ し尿浄化槽設備図 ・ ごみ処理設備図 ・ さく井設備図 ・ 昇降機設備図 ・ 搬送機設備図 ◎ 機器リスト（必要に応じて） ◎ 系統図（必要に応じて） ◎ 配管図（必要に応じて） ◎ 詳細図（必要に応じて） ◎ 器具リスト（必要に応じて） ◎ 分電盤リスト（必要に応じて） ◎ 姿図（必要に応じて） ・ 機械設備設計計算書 ・ 工事費概要書（実施要綱第24条に基づく図書） ・ 計画通知図書 ・ 中高層建築物の届出書 ・ 機械設備設計チェックリスト ・ 維持管理計算書 ・ 許可、認定、承認、届出書等 ※ 打合せ記録 	各 1 部	各 1 部	A3orA4	※CD-Rによる提出
	各 1 部	各 1 部	A3orA4	※CD-Rによる提出
	各 1 部	各 1 部	A3orA4	※CD-Rによる提出
e. 建築積算				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築工事積算数量算出書（RIBC） ・ 建築工事積算数量調書 ・ 見積書等関係資料（見積書・見積比較表等） ・ 営繕工事積算チェックマニュアル（建築工事編） ・ 単価資料 	各 1 部 — 各 1 部 各 1 部 各 1 部			※A4出力 ※CD-Rによる提出
f. 電気設備積算				
<ul style="list-style-type: none"> ※ 電気設備工事積算数量算出書（RIBC） ※ 電気設備工事積算数量調書 ※ 見積書等関係資料（見積書・見積比較表等） ※ 営繕工事積算チェックマニュアル（電気設備工事編） ※ 単価資料 	各 1 部 — 各 1 部 各 1 部 各 1 部			※A4出力 ※CD-Rによる提出
g. 機械設備積算				
<ul style="list-style-type: none"> ※ 機械設備工事積算数量算出書（RIBC） ※ 機械設備工事積算数量調書 ※ 見積書等関係資料（見積書・見積比較表等） ※ 営繕工事積算チェックマニュアル（機械設備工事編） ※ 単価資料 	各 1 部 — 各 1 部 各 1 部 各 1 部			※A4出力 ※CD-Rによる提出

成果物	原図	写し	製本形態	適用 (A1判以外は特記)
h. その他 ・透視図 ・透視図の写真 ・模型 ・模型の写真 ・防災計画書 ・建築物エネルギー消費性能確保計画 ・建築物エネルギー消費性能確保のための構造及び設備に関する計画 ◎省エネルギー関係計算書 ◎リサイクル計画書 ◎概略工事工程表 ・営繕事業広報ポスター ・施設使用条件書 ◎仮設検討図 ・建築物総合環境性能評価システム(CASBEE)による評価書 ・LCEMツールによる空調システムの評価報告書 ・コスト削減検討報告書 ・環境配慮指針チェックリスト ・工事現場の生産性向上に配慮した事項の報告書 ・建築部材等アスベスト使用調査報告書 ・滋賀県リサイクル認定製品使用検討報告書	各1部 各1部 各1部 各1部 各1部 各1部 各1部 各1部 各1部 各1部 各1部 各1部 各1部 各1部 各1部 各1部 各1部 各1部 各1部 各1部			※CD-Rによる提出 ※A4出力
i. 資料 ◎各種技術資料 ・構造計算データ ◎各記録書 ・CO2排出量削減機材仕様等導入検討報告書 ・	各1部 各1部 各1部 各1部			※CD-Rによる提出 ※A4出力

(注)： 営繕積算システムRIBC2について

- (1) 積算数量調書、単価資料等の作成は、営繕積算システムRIBC2（一般財団法人建築コスト管理システム研究所）「内訳書作成システム」による。
- (2) 営繕積算システムRIBC2「内訳書作成システム」は、一般財団法人建築コスト管理システム研究所からレンタルし、本県より提供する名称および複合単価ファイルと併せて入力作業を行う。
- (3) 提出する内訳書ファイルは、各内訳書（名称、摘要、数量、単位、単価、金額、備考）、別紙明細書、代価表とする。なお、内訳書ファイルに入力する単価、金額は、受注者の単価、金額とする。
- (4) 営繕積算システムRIBCの問い合わせ先

一般財団法人建築コスト管理システム研究所
 〒105-0003 東京都港区西新橋3-25-33 フロンティア御成門5階
 お申し込み、ご契約等について (03) 3434-3290
 システム内容、操作方法について (03) 5425-2518

内訳書作成システムのレンタルについては、受注者負担とする。
 1か月利用料： 10,000円（税抜）（令和6年3月31日現在）

： 成果物について

- (1) 成果物は、監督職員の指示により、製本とする。
- (2) 「CD-Rによる提出」が特記された成果物等は電子データにて納品する。次によるほか、建築設計業務等電子納品要領および官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕業務編】を参考にする。なお、「CD-Rによる提出」が特記されていない成果物等を電子データにて納品の対象とする場合は、監督職員と受注者で協議を行う。
- (3) CD-Rにて提出の場合、ファイル形式は、以下のとおりとする。
 - ① 図面ファイルのファイル形式は、DWG形式またはDXF形式およびJWW形式によることとし、1図面1ファイルとなるよう作成する。また、オリジナルファイルおよびPDF形式も提出する。
 - ② オリジナルファイルを作成するソフトウェアおよびファイル形式については、受注者が決定することができる。ただし、可能な限り一般的なソフトウェアを利用するよう努める。
 - ③ 図面ファイル以外の業務関係資料ファイルのファイル形式は、監督職員と受注者で協議し決定する。
- (4) ウィルス対策については、以下のとおりとする。
 - ① 受注者は、成果品が完成した時点で、ウィルスチェックを行う。
 - ② 最新のウィルスも検出できるように、ウィルス対策ソフトは常に最新のデータに更新（アップデート）したものを利用する。

- ③ 電子媒体の表面には、「使用したウイルス対策ソフト名」、「ウイルス（パターンファイル）定義年月日またはパターンファイル名」、「チェック年月日（西暦表示）」を明記する。
- (5) BIMモデルを成果品として提出する場合は、BIM適用事業における成果品作成の手引き（案）による。
- (6) CD-Rにて提出の場合、電子媒体の提出部数は1部とする。

別表 設計業務委託に係る対象外業務

区分	項目		摘要
基本設計に関する 業務細分率	(1) 設計条件等の整理	(i) 条件整理	
		(ii) 設計条件の変更等の場合の協議	
	(2) 法令上の諸条件の調査及び 関係機関との打合せ	(i) 法令上の諸条件の調査	
		(ii) 建築確認申請に係る関係機関との打合せ	
	(3) 上下水道、ガス、電力、通信等の供給状況の調査及び関係機関との打合せ		
	(4) 基本設計方針の策定	(i) 総合検討	
		(ii) 基本設計方針の策定及び建築主への説明	
	(5) 本設計図書の作成		
	(6) 概算工事費の検討		
	(7) 基本設計内容の建築主への説明等		
実施設計等に関する 業務細分率	(1) 要求の確認	(i) 建築主の要求等の確認	△
		(ii) 設計条件の変更等の場合の協議	△
	(2) 法令上の諸条件の調査及び 関係機関との打合せ	(i) 法令上の諸条件の調査	△
		(ii) 建築確認申請に係る関係機関との打合せ	△
	(3) 実施設計方針の策定	(i) 総合検討	△
		(ii) 実施設計のための基本事項の確定	△
		(iii) 実施設計方針の策定及び建築主への説明	△
	(4) 実施設計図書の作成	(i) 実施設計図書の作成	△
		(ii) 建築確認申請図書の作成	○
	(5) 概算工事費の検討		△
(6) 実施設計内容の建築主への説明等		△	
設計意図の伝達に関する 業務細分率	(1) 設計意図を正確に伝えるための質疑応答、説明等		△
	(2) 工事材料、設備機器等の選定に関する設計意図の観点からの検討、助言等		△

※ 「○」は業務のすべてを対象外とするもの、「△」は業務の一部を対象外とするものを示す。

滋賀県立大学B棟他受変電設備等更新工事について（補足）

1) 現在の設備の停止時期の目安

① 12月の初旬に特高変電所を停止にて点検

※通常1日のため、更新に伴い停止日が必要であれば前年度からの周知が必要。

2) 現在の設備の状況

各棟電気室は、既存盤ではほぼ占有しており、更新盤の置き場はない。停電時間を短くするため、更新盤を屋外か付近の空調機械室に設置することになる。ただし、空調機械室は不使用する機器が残置してあるため、使用するには撤去工事が必要となる。

3) 更新工事の考え方

上述のことから、更新工事に伴う停電を極力少なくするような設計とするため、更新盤を設置する場所を検討すること。

各棟変電設備の更新は、トランス集約の可否、既設低圧配電盤再利用などを検討すること。

電気室等の照明設備、自動火災報知設備および換気設備の改修、更新の設計を行うこと。

特高電気室からの送電用高圧ケーブルの更新を検討するとともに、配線ルートや棟間ループ配電（ex. 特高電気室～D棟～交流センター～特高電気室）を各棟へ直接特高電気室から送電（一般系・保安系）できるように、受配電設備を検討すること。

保守点検や工事など運用上必要により一般系、保安系受電を切替する必要がある場合、低圧電気設備が停電しないような受変電設備にすること。